

産業建設常任委員会審査概要報告書

委員長 酒井 善広

- I 開催年月日 令和 4 年 2 月 10 日（木）
- II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 47 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎酒井 善広 ○石須 大雄 山上 尊士
梅島 清香 嶋川 武秀 藪中 一夫
金森 一郎 大井 正樹 狩野 安郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
- [議長] 坂林 永喜
- [副議長] 本田 利麻
- [説明員] 別紙名簿のとおり（澤都市創造部次長が公務のため欠席）
- [委員外議員] 田中 勝文
- [事務局職員] 西本 幸夫 池守 凡子 堀田 寛之
- [傍聴者] 1 名

IV 審査の概要

1 報告事項について

〈 当局から、次のとおり報告・説明があった。 〉

[産業振興部]

- (1) 「高岡市飲食店向けキャッシュレス還元事業」の結果について
- (2) 令和 3 年産米品質概況及び令和 4 年産米の生産目標(数量・面積)について

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【高岡市飲食店向けキャッシュレス還元事業の結果について】

- 12 月と 1 月の利用額を踏まえて、今後の課題は。
- △ 当初、経済波及効果額 5 億 8,800 万円を見込んでいたが、それを上回る数字となり、飲食店支援に対して一定の効果があったものと認識している。ただし、1 月から新型コロナウイルス感染症の感染拡大があり、尻上がりに利用が伸びる従来のパターンとはならなかった。今回の事業では、消費喚起のほかに、電子決済の普及も目的としていたので、今後、P a y P a y 社の協力を得ながら、2 月と 3 月の利用

実態の把握に努めるなど、効果検証を行っていききたい。

- 様々な事業者が疲弊しているため、令和4年度には飲食店の救済だけでなく、幅を広げた事業を実施するべきと考えるが、見解は。
- △ 今後の経済状況等も勘案し、迅速かつ的確な事業者支援に結びつけられるように、今回のキャッシュレス還元事業も手法の一つとした上で、様々な対策の検討をしていきたい。国の事業復活支援金という使いやすい制度もあることから、これを積極的に周知し、事業者の支援に少しでも役立ってほしいと考えている。

【令和3年産米品質概況及び令和4年産米の生産目標(数量・面積)について】

- 令和3年産うるち玄米1等比率について、福岡地域では、てんたかく、コシヒカリ、てんこもり、富富富のいずれも90%を超えている中で、うるち米全体が86.6%となっている要因は。
- △ うるち米全体の中には、多収米である「やまだわら」という品種があり、長雨や日照不足の影響を強く受けたため、1等比率が低くなっている。

〔都市創造部〕

- 能越自動車道福岡PAのインター化に係る第1回地区協議会について（報告）

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〔上下水道局〕

- (1) 高岡市上下水道ビジョンの見直しについて
- (2) 公共下水道の整備計画について

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

【高岡市上下水道ビジョンの見直しについて】

- 人口減により、労働力が減少する中、莫大な時間やお金がかかる。将来を見据えたDX化が必要になってくると考えるが、見解は。
- △ 今後、施設の老朽化は確実に生じるため、ストックマネジメントやアセットマネジメントにおける適正な維持水準、規模が求められると考えている。適正な維持水準や規模を把握するために必要なものが、様々なデータということになる。データを収集するためだけでなく、経営効率を考えてもやはりDXは、今後非常に大事になってくる。単にデジタル化は、上下水道に使うためのデータだけではなくて、市民生活全体へ有効に活用する方法も含めて初めてトランスフォーメーションになると考えている。一般的には高齢者等の見守りに使えるなどの利用方法が提案されているが、上下水道のデータだけではなかなか難しい部分もある。他のデータと組み合わせることによって、市民生活がより豊かになる使われ方もある。個人情報等の解決すべき問題もあるが、上下水道局としては、まずデータをしっかりと収集し、将来のために使える形で残すことが大事と考えており、それらをうまく使いながら、

施設の規模や効率的な経営につなげていきたい。

2 その他について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

〔産業振興部〕

- とやま呉西圏域起業・創業支援事業「先輩創業者から学ぼう！オンライン訪問ツアー」の開催について

〈 委員から、質疑等はなかった。 〉

〈 委員から次の質疑等があった。 〉

【日本海高岡なべ祭りについて】

- 開催に際し、一部否定的な意見やなべ祭り自体に批判的な発言をされる方がいると仄聞している。地域商店街の経済循環を含めた中心市街地の活性化に非常に有意義だと思うが、今事業の成果は。
- △ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催時間を例年より2時間短縮したほか、会場内の人数制限、飲食スペース以外での飲食禁止などの対策を講じて実施した。コロナ禍において、多くの祭りやイベントが中止となる中、関係団体や企業、事業者のご理解ご協力のもと、冬の高岡の風物詩となっている、なべ祭りを開催することができ、温かい鍋を提供することができた。会場内の人数制限、時間の短縮などを行ったが、準備した1万食のうち約94%を提供することができた。多くのお客様にお越しいただき、中心市街地ににぎわいが生まれ、地域経済の活性化に向け、一定の効果があったと考えている。
- 今後に向けた課題は。
- △ 会場内の飲食スペースへの入場制限を行った結果、入場待ちの列が生じる時間帯があった。次回開催時にも同様の感染症対策が必要な場合には、受付券提出者と入場待機者の動線を切り分けるなど、会場内外のレイアウトを工夫して、会場周辺の混雑緩和策を講じる必要があると考えている。混雑緩和のためには、会場や会場席数を増やすという方法もあるが、その方法では、提供食数の増加に繋がる一方で、会場整理やテーブル消毒等に従事する人員の増加、飛沫防止パネルや消毒液など感染対策の経費が増加することにも繋がるため、収支も考慮した上で、慎重に検討したい。
- コロナ対策と混雑防止として、チラシに入場確認表を切り取れるようにしてあったが、事前に記入してきた割合は。
- △ 確認表全体の約17%が事前に記入されていた。
- 本来は事前記入していた人はスムーズに入場できてよかったが、受付場所が1

か所しかなく、結局列に並ぶしかなかったことを踏まえて、次回開催時には事前記入者専用の受付を設置しては。

- △ 会場内人数を調整するため、受付入口を1か所とし、動線を一定方向に流れるようにした結果、混雑や待機列ができてしまった。イベントのチラシに設けた入場確認表の記入率が約17%とあまり多くなかったのも、事前の周知を徹底したいと考える一方、会場内外のレイアウト等を工夫することで、混雑緩和を行いたい。そのため、事前記入者専用の受付を作ることも一つのアイデアと考えている。

【観光施策について】

- 宿泊施設の救済策として、高岡市民が高岡に泊まれるキャンペーンも令和4年度に検討しては。
- △ 令和2年7月から令和3年12月まで、県民向けの「高岡で泊まろう！宿泊応援キャンペーン」を実施してきた。この利用者内訳は、高岡市内居住者が全体の約3割、続いて富山市の利用が多く、高岡を含む県西部6市の合計は全体の7割であった。県境を跨ぐ移動が制限されるなど、コロナ禍において県民向けキャンペーンは市内宿泊事業者への支援として、一定の効果があったものと考えている。ただし、宿泊施設の稼働率は現在まだ十分とは言えない。市内宿泊者数の底上げには、高岡市民を含め、市外県外客など幅広い誘客が必要と考えている。県が実施している宿泊キャンペーンは、現在休止されているが、隣県割引など、対象を拡大する方針で実施されていた。令和4年度の本市の事業については、これらの事業も参考にしながら、市内宿泊など観光消費の増加に繋がる取り組みを進めていきたいと考えている。
- 吉久が高岡市3例目の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、勝興寺の平成の大修理が終了し、高岡万葉歌碑が万葉歌碑の魅力を発信する日本観光振興協会において全国で唯一のモデル地区に選定されるなど、高岡市への観光は今が旬だと考える。万全のコロナ感染対策のもと観光施策を積極的に推進すべきと考えるが、見解は。
- △ 勝興寺をはじめ、市の北部エリアには様々な魅力的な資源があり、その地域では、観光への期待や機運が高まっていると感じている。このような期待を受け、令和4年2月1日からは、観光客が市の北部エリアを周遊しやすくなるように、バスや万葉線による、伏木・吉久エリアの万葉線・加越能バス共通の乗り放題切符「高岡ワイド1日フリー切符」を造成し、販売している。新型コロナウイルスの収束が見通せない状況ではあるが、必要な感染対策を十分に取った上で、感染状況に応じて、今後も観光関連事業者や観光協会などとも連携しながら、的確な観光誘客を展開していきたい。
- 現在、DMO(県西部観光地域づくり法人一般社団法人富山県西部観光社 水と匠)が瑞龍寺・勝興寺・国泰寺の三寺巡りツアーを企画し、3月に販売を始めると聞いている。外国人向けに加え、地元向けプランの準備を進めているとのことだが、本市として今事業にどのように連携を図るのか。
- △ 今後の商品造成にあたって、県内外へのPRや、ツアーに組み込まれる各施設の受け入れ体制、その他の観光地への誘導、周遊の促進など、「水と匠」関係者とも

協議し、連携していきたい。

【除雪の実施状況について】

- 除雪車の出動状況は。
 - △ 令和4年2月10日時点において、12日の出動日数となっており、うち市内一斉の全車出動は6日間となっている。
- 除雪車に搭載されたGPS機能の活用状況は。
 - △ GPSは、除雪車の移動経路や稼働時間が把握できることから、市民からの除雪状況に対する問い合わせの確認作業、除雪業者の日報作成、委託費算定のための作業時間確認などに活用している。また、次年度の除雪路線を検討する際のデータとしても活用する予定としている。
- 除雪対策本部に寄せられた苦情等の状況とその対応は。
 - △ 令和3年度の除雪に関する市民からの問い合わせ件数は、1月末時点で約400件となっている。主な内容としては、除雪作業による施設の破損、消雪施設のトラブル、除雪状況の問い合わせなどである。問い合わせ内容については、除雪本部職員が随時、現地確認や補修作業を行っている。
- 横田地区でスタートした「地域除雪」の実施状況は。
 - △ 横田地区で実施している地域除雪については、これまでの除雪業者による道路除雪と同様に、速やかに除雪作業を実施しており、協議会に対する住民からの苦情もなく、順調であると聞いている。
- 1月末時点での問い合わせ件数が400件ということであるが、近年問い合わせ件数は増えているのか。
 - △ 問い合わせの件数は、年によってかなりばらつきがあり、令和2年度は約2,000件あった。3年度は雪が降った時期が短いことから、件数が400件に止まっている。問い合わせの内容については、2年度は、作業が遅れたこともあり、苦情が多かった印象があるが、3年度は苦情が少なく、現在の除雪状況を問い合わせる内容が多かった。この先もまだ予断を許さない状況であることから、気を引き締めて対応するとともに、改善点があれば、改善していきたい。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

産業建設常任委員会 当局説明員（１７名）

産業振興部長	福 田 直 之	都市創造部長	赤 阪 忠 良
産業振興部次長	柳 原 隆	都市創造部次長	澤 徹
産業振興部参事（兼務）	竹 内 悟	都市創造部次長 参事	竹 内 悟
産業企画課長	長 井 剛 志	道路整備課長	山 森 久 史
商業雇用課長	表 野 勝 之	土木維持課長	中 出 裕 嗣
観光交流課長	高 嶋 史 恵		
農業水産課長	須 田 稔 彦	上下水道事業管理者	黒 木 克 昌
		上下水道局次長	嘉 信 和 昭
		上下水道局参事	五 十 里 康 夫
		総務課長	亀 岡 勝 彦
		水道工務課長	熊 本 敬 二
		下水道工務課長	寺 井 義 則